

令和4年度

第4回阿南市在宅医療・介護連携促進ワーキンググループ会議（議事録）

令和5年2月28日（火）

【場 所】阿南医療センター 2階講義室 時 間：14:00～15:10

【参加者】 病院関係 寺嶋 吉保 （阿南医療センター）
館 美加 （阿南医療センター）
森 数江 （阿南医療センター）
高橋 英子 （阿南医療センター）
田神 由香 （阿南医療センター）
歯科衛生士 武田 美輪 （徳島県歯科医師会南部歯科連携室）
居宅介護支援 倉橋 智子 （居宅介護支援事業所ほっとピース）
小規模多機能 木村 賢徳 （ライフサポートキムラ）
阿南市役所 石本 祐一 （地域共生推進課）
松崎 由美 （地域共生推進課）
阿南市在宅医療・介護連携支援センター
湯浅 祐司

【欠席者】 在宅医師 瀬川 淳 （益崎胃腸科内科医院）
病院関係 前田 徹 （阿南医療センター）
羽坂 美保 （阿南医療センター）
阿南市在宅医療・介護連携支援センター
福島 咲由理（看護師）

① 第4回ケアカフェについて

目的：医療・介護従事者が顔の見える関係づくりを行うことで、連携の強化を図る。

開催日時：令和5年3月28日（火）15:30～17:00 予定

会場：阿南医療センター2階講堂

講義内容：感染症について

講師：阿南医療センター 原崎氏

開催方法：15:30～17:00（講義・グループワークを行う）

対象者：特別養護老人ホーム・老人保健施設・高齢者お世話センター・居宅介護支援事業所・グループホーム・小規模多機能型居宅介護・ワーキンググループメンバー

- ・第4回は皮膚・排泄ケアを予定していたが、新型コロナウイルス感染症の対応に大幅な動きがあり、委員や福祉施設職員からの希望が多い感染症について講義を行う。講師は阿南医療センター認定看護師の原崎氏にお願いをする。タイムリーな情報も交えて、講義のあとは意見交換会を行う。時間は90分を予定。
- ・研修内容は、参加者の所属に対して普及し、市全体の資質向上を目指す。また、参加者の所属の施設のうち希望する施設に対してQRコードにより動画配信を共有する。なお、配信は1週間として期限を定めて行い、個人情報等の情報漏洩の徹底を行う。撮影はケーブルテレビ阿南に依頼している。
- ・対象施設種別については、講習内容に鑑み、特別養護老人ホーム・老人保健施設・お世話センター・居宅介護支援事業所・グループホーム・小規模多機能型居宅介護・ワーキンググループメンバーとし、新型コロナウイルス感染症対策として上限50人とする。

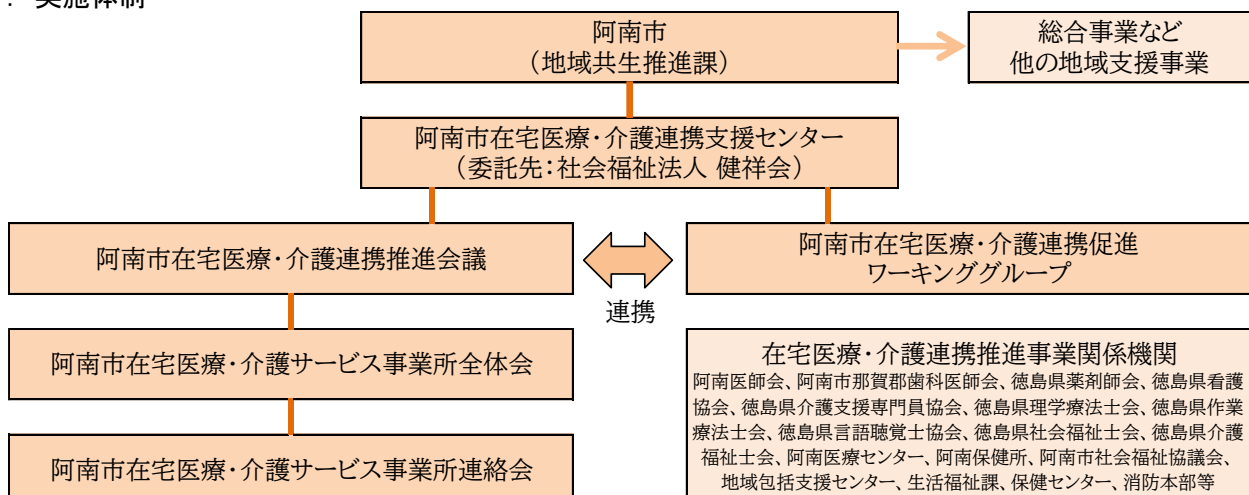
② 今年度の振り返り、来年度について

令和4年度阿南市在宅医療・介護連携推進事業実施報告について

1. 目的

医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、切れ目のない在宅医療と介護の提供体制を構築するため、住民や地域の医療・介護関係者と地域の目指すべき姿を共有しつつ、医療機関と介護事業所等の関係者の連携を推進することを目的とする。

2. 実施体制



3. 実施内容

地域包括ケアシステムの実現に向けて、切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築のため、地域のめざすべき姿を設定し、医療・介護関係者と共有した上で、地域の実状に応じ、取組内容の充実を図りつつ、PDCAサイクルに沿った取組を進める。

1) 現状分析・課題の抽出・施策立案（計画）

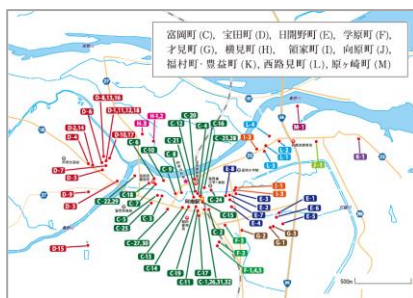
切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築に向け、現状の分析、課題の抽出、施策の立案を行う。

(ア) 地域の医療・介護の資源の把握

医療機関・介護サービス事業所マップを更新（現在調査中）

阿南市通所・訪問リハビリ事業所情報の更新（令和4年10月1日現在）

阿南市医療機関情報の更新（令和4年9月1日現在）



(イ) 在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討

（委員：阿南市医師会、阿南市那賀郡歯科医師会、薬剤師会、徳島県看護協会、介護支援専門員、徳島県阿南保健所）

第1回阿南市在宅医療・介護連携推進会議（令和4年7月28日）

第2回阿南市在宅医療・介護連携推進会議（令和5年2月16日）



阿南市在宅医療・介護連携ワーキンググループ

（委員：地域医療・在宅医師、阿南医療センター、病院看護師、歯科衛生士、居宅介護支援事業所、小規模多機能介護施設）



第1回阿南市在宅医療・介護連携ワーキンググループ（令和4年5月24日）

第2回阿南市在宅医療・介護連携ワーキンググループ（コロナ感染拡大のため中止）

第3回阿南市在宅医療・介護連携ワーキンググループ（令和4年11月29日）

第4回阿南市在宅医療・介護連携ワーキンググループ（令和5年2月28日）

利用者とその家族、介護支援専門員及び「通いの場」を対象としたアンケート調査

（令和4年9～10月実施）

(ウ) 切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築の推進



阿南市在宅医療・介護サービス事業所連絡会

居宅介護支援事業所連絡会（令和4年5月26日）

内容：避難行動要支援者個別計画、BCPについて

阿南市在宅医療・介護サービス事業所全体会

（令和4年11月21日）

内容：新型コロナウイルス感染症の対応状況・課題

2) 対応策の実施

(ア) 在宅医療・介護連携に関する相談支援

地域の在宅医療・介護の連携を支援する相談窓口の設置・運営

阿南市在宅医療・介護連携支援センター

相談員2名（介護支援専門員、看護師）

(イ) 地域住民への普及啓発

① 阿南市在宅医療・介護連携支援センターのリーフレット作成及び普及啓発

② 阿南市在宅医療・介護連携推進事業ホームページによる普及啓発

③ 第6回市民公開講座（令和5年3月19日開催予定）

基調講演：

「自分らしく生き切るⅡ～いのちの終わりの向け合いかた～」

講師：阿南医療センター 緩和ケア内科部長 寺嶋 吉保 氏

阿南市版エンディングノートたまたま箱の説明

説明：阿南西部高齢者お世話センター 社会福祉士 栗飯原 由紀氏

アドバンス・ケア・プランニングの説明

説明：阿南医療センター 緩和ケア内科部長 寺嶋 吉保 氏



(ウ) 医療・介護関係者の情報共有の支援、知識の習得等のための研修などの地域の実状に応じた医療・介護関係者の支援

① 在宅での看取り、急変時、入退院時にも活用できる情報共有ツールの整備

医療サービス連携シートの更新及び普及啓発

② 地域の医療・介護関係者の連携を図るための多職種連携研修・グループワーク等

第1回ケアカフェ（令和4年6月30日）

研修「アドバンス・ケア・プランニング（ACP）」

講師 阿南市医療センター 緩和ケア認定看護師 中島 忍氏

グループワーク「もしばなゲーム」



第2回ケアカフェ（新型コロナウイルス感染防止のため中止）

第3回ケアカフェ（令和4年12月27日）

研修「呼吸器疾患患者の在宅療養移行～暮らしと笑顔を守る支援～」

講師 阿南医療センター 慢性呼吸器疾患看護認定看護師

田神 由香氏

事例検討 慢性呼吸疾患患者への支援



第4回ケアカフェ（令和5年3月28日予定）

研修「皮膚・排せつケアについて」

講師 阿南医療センター 皮膚・排せつケア認定看護師

3) 対応策の評価の実施、改善の実施

【本計画期間における目標・指標】

区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度
阿南医療センターにおける医療ニーズの高い患者の在宅復帰率	94.7%	94.8%	94.9%
阿南市在宅医療・介護連携支援センターにおける相談対応件数	30件	35件	40件
多職種連携研修会の参加者数	210人	220人	230人
市民公開講座の参加者数	320人	320人	320人
利用者及び家族、介護支援専門員を対象としたアンケート調査の実施件数	30件	30件	30件
「通いの場」におけるアンケート調査の実施件数	50件	80件	100件

【実績】

区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度 (1月末)
阿南医療センターにおける医療ニーズの高い患者の在宅復帰率	91.4%	89.8%	85.1%
阿南市在宅医療・介護連携支援センターにおける相談対応件数	28件	29件	66件
多職種連携研修会の参加者数	76人	94人	63人
市民公開講座の参加者数	58人	動画配信 視聴数 276回	50人予定
利用者及び家族、介護支援専門員を対象としたアンケート調査の実施件数	0件	57件	75件
「通いの場」におけるアンケート調査の実施件数	0件	29件	72件

《委員からの意見》

・来年度も引き続き、ACPについて取り入れるのが良い。そこで、施設での看取りを含めて

特別養護老人ホームを委員として参加して貰い、意見交換をするのが良いのではないかと？
また、入所時に看取りの方針を聞いているが実際は施設看取りでなく、いざ看取りに直面すると家族の意向として病院での看取りを行うことが多い。

⇒来年度の委員案で特別養護老人ホームも委員として人選検討を行う。

⇒歯科診療でよく聞くのが、家族としてはいざ看取りを迎えると最後までどうにか医療を提供したいとの気持ちに変化することが多いので、今後の検討課題としていくべきである。

・居宅介護支援事業所として、たん吸引が必要な利用者の対応について研修等により対応力向上することが必要と感じる。

⇒来年度の研修実施に向けて検討をする。

・阿南医療センターの在宅復帰率について。

⇒第8期介護保険計画で在宅復帰率指標を行うこととなった。この数字は医療報酬の算定から出されており、転院をした患者様は在宅復帰には含まず、施設は含まれる。ただし、老人保健施設は強化型の場合等の施設の体制に応じて在宅復帰とみなす要件がある。

目標数値は高いが新型コロナウイルス感染症の患者も含めての計算なので、かなり高い復帰率が達成できている。

・ACPについて

⇒今後も研修等を行い、阿南市版ACPの構築に向けて今年度は徳島県より2名（阿南医療センター看護師、阿南市在宅医療・介護連携支援センター長）が指導者資格の取得ができた。今後も普及のために関係者の資格取得に努める。

・フィードバックについて

⇒連携推進会議で行った事例検討及び協議事項の報告を行う。各会での事案についてはフィードバックできているので、今後も各会議の連携も行っていく。

③ 市民公開講座について

・主催は阿南市、阿南市在宅医療・介護連携支援センター、共催として阿南医療センターで開催予定。寺嶋先生によるACPについての講演、高齢者お世話センターによるたまた箱の説明、寺嶋先生によるACPについて「もしもの時のために」のノートを用いての記載も行う。一般市民だけでなく関係機関職員も資質向上のために参加をしていただくようにしている。

運営職員は、阿南市、阿南市在宅医療・介護連携支援センター、阿南医療センター、高齢者お世話センター（保健師部会・社会福祉士部会・主任ケアマネ部会）の職員で行う。

講座の最後に、保健師部会より認知症ケアパスについても案内を行う。

ケーブルテレビあなんでの放映、徳島新聞取材等を行う予定。

④ 委員構成について

・阿南市在宅医療・介護連携促進ワーキンググループ会議委員で3名が体調不良・退職等で今年度の委員継続ができなくなっているが、欠員となった現在の委員体制でも協議に問題は無いとの意見があった。しかし、今後の多職種連携構築を考えていく必要があるとの委

員からの意見もあったため、新たに、薬剤師、特別養護老人ホームを追加しての委員構成をしていく。

来年度に向けて、新たな委員体制で多職種連携強化に繋げることを目指す。

- ・開催については3月下旬に人事異動等があるので、来年度4月に最終委員構成等を行い、ワーキンググループ会議の開催していく。

④ 今年度の総評

阿南市福祉事務所

- ・石本祐一所長より

今年度の取り組みは新型コロナウイルス感染症の中、多職種連携で様々な対応を行い、個人としても勉強となった。今後も市と医療・介護の多職種が連携し、市民が安心して生活ができるように努めて参りましょう。

阿南医療センター挨拶

- ・寺嶋 吉保先生より挨拶

来年度もACPを年間通じて取り組みの柱として行っていきたい。ACPについては全国でも力を入れ、徳島県下で阿南市が先頭に立って取り組んでいきたい。ACPを普及啓発させ、その人に寄り添った対応・取り組みを推進する必要がある。

また、阿南市で作成している「たまた箱」と阿南市医療センター発行の「もしもの時のため」も引き続き、セットでのACP普及を行っていきたい。

来年度も医療と介護の多職種で意見を出し合って連携強化に繋げていきたい。

【会議風景】



報告者 センター長 湯浅 祐司